

# 利用促進部会の活動について

～ 現在までの活動の整理 ～

2007年7月31日

利用促進部会 副部長  
三菱総合研究所 西村 俊之

利用促進部会(第7回)

# 1. 利用促進部会の活動方針

## 【基本方針】

産・学・官・地域の関係者間の意見交換・交流を促進し、特に地域におけるJGN の利用促進を通じて研究開発の活性化を図ることを目的として、利用促進部会を設置

活動領域は次のとおり。

- ア 産・学・官・地域と連携した、JGN の利活用促進と研究開発の活性化の検討
- イ 地域協議会との連携等、産・学・官・地域との連携に関する具体的な促進方策の検討
- ウ その他JGN2の利活用促進に関する検討

## 【活動の目標】

利用者間による活発な議論が展開されるような情報交換の場を設定し、JGN2利用の成果を明確化していく。

地域ネットワークとの相互接続および地域の研究活動促進のための環境作りを行う。

地域活性化、人材育成に貢献した優秀プロジェクトの表彰を行う。

利用ノウハウに関わる情報提供。

新規利用者の獲得および地域において中核となれる人材の発掘。

## 2. 利用促進部会体制

利用促進部会の組織は次のとおり。

[部会長]  
相原 玲二(広島大学 教授)  
[副部会長]  
西村 俊之(三菱総合研究所)

[メンバー]  
JGN2利用者、アクセスポイント担当者、民間企業、  
大学、地方自治体、総合通信局、地域協議会 他

平成19年3月現在 登録者数 262名

## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第1回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成16年7月21日(水) 14時~16時
- ・場所:六本木ヒルズ森タワー 49F スカイスタジオ
- ・参加者数:約100名
- ・内容:
  - 利用促進部会の設置・運営方針、今後の進め方について
  - JGN2の概要について
  - 地域協議会の設立状況について
  - 講演
    - 「JGN 利用報告 ~利用者の視点から~」(広島大学 相原部会長)
    - 「次世代高度ネットワーク九州地区推進協議会の設立について」(NICT北九州IT支援センター)



### 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

#### 第2回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成17年1月17日(月) 10時~12時
- ・場所:大阪国際会議場(グランキューブ) 1008会議室
- ・参加者数:約60名
- ・内容:

#### JGN2利用者による研究活動の紹介について

- JGN2と超高速インターネット衛星(WINDS)の相互接続に関する技術検証  
(独立行政法人・宇宙航空研究開発機構)
- e-VLBI実験  
(独立行政法人・情報通信研究機構)
- 工業系高等学校におけるIPv6を用いたユビキタス社会実験研究  
(佐賀大学 近藤弘樹教授)
- 兵庫・京都・滋賀・福井情報ハイウェイ相互接続実験(兵庫県)
- 量子暗号通信の既設ファイバー網通信試験  
(三菱電機 松井充氏)
- IPv6による医療系VGN実用化技術実証実験  
(特定非営利活動法人・北海道地域ネットワーク協議会 辰巳治之教授)

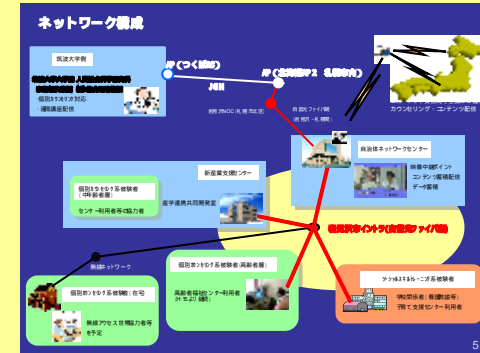
研究計画書の記載方法について  
競争的資金制度について

# 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

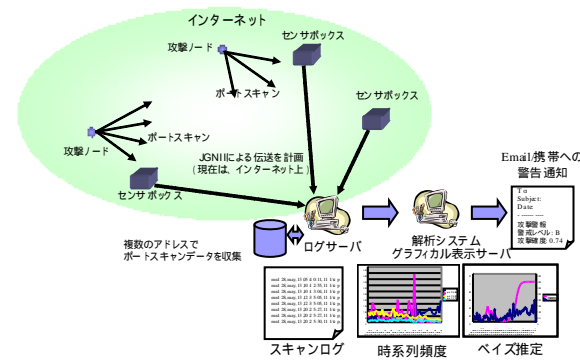


## 第3回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成17年7月27日(水) 14時～16時
- ・場所:品川イーストワンタワー 大会議室
- ・参加者数:約80名
- ・内容:JGN の利用状況と利用促進WGの活動報告など  
 JGN 利用者による事例紹介
  - JGN を活用した遠隔カウンセリングに関する研究開発(岩見沢市)
  - JGN の利用開始事例 ～ 定点観測システムの研究開発を通して～  
 (三菱総合研究所)



## 定点観測システムWCLSCANのシステム概要



## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第4回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成18年1月18日(水) 10時半～12時
- ・場所:仙台国際センター 大会議室「橘」
- ・参加者数:約60名
- ・内容:利用状況報告

利用促進WGの活動状況と今後の方針

JGN 利用者による事例紹介

- 高速広域L2網によるリアルタイム地震観測波形データ交換システムの構築  
(東京大学 鷹野澄助教授)
- 東海地域におけるJGN2コミュニティネットワークの活動について  
(名古屋大学 河口信夫助教授)
- 地域情報ハイウェイの相互接続による広域連携  
～TV放送映像中継実験など～ (総務省近畿総合通信局)
- 四国におけるJGN2利用促進活動について  
～イベント実施を通じた地域連携づくり～ (総務省四国総合通信局)



## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第5回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成18年6月6日(火) 13:30~17:20
- ・場所:八重洲富士屋ホテル 2F 櫻(東)の間
- ・参加者数:約80名
- ・内容:JGN2の利用状況

産学官連携を促進するための施策の紹介  
技術勉強会「JGN におけるIPv6の利用」  
パネルディスカッション「JGN2の利用促進と人材育成」  
グループディスカッション

グループA:「地域活動との連携について」

グループB:「ICTを活用した地域産業の活性化について」

グループC:「地域社会への応用について」





## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第5回利用促進部会「グループディスカッション」の概要

#### **グループA:「地域活動との連携について」 (グループ長:NICT九州リサーチセンター 特別研究員 広岡 淳二)**

- ・コミュニティを形成すれば、最初は小規模であっても、やがてそれが大きな輪になっていく。だがコミュニティを継続させるためには、コミュニティを運営していく人(技術者、マネージャ)を育てる必要がある。
- ・ネットワーク環境やインフラが整ってもそれだけでは不足であり、コミュニティの活性化のためには、技術的な人材だけでなく、アプリケーションやデザイン、企画などを考える人材も必要である。
- ・コミュニティが最終的に地域と連動していく際には、行政のバックアップが求められる。

#### **グループB:「ICTを活用した地域産業の活性化について」 (グループ長:高知工科大学 助教授 菊池 豊)**

- ・地域活性化において、例えば産学連携やベンチャーなどのような、起点となるアイデアがないことが問題である。ラストワンマイルなどのよく挙げられる課題も、こうした起点があればクリアできると思われる。
- ・地域で予算を得てシステムを導入しても運用が続かないことが多い。システムを効果的に運営し続けるためには、継続的にマンパワーや予算が必要となる。
- ・地域におけるキーパーソンを探し、育てることに加え、キーパーソンが自由に動けるような環境の構築やキーパーソンの世代交代なども重要である。

#### **グループC:「地域社会への応用について」 (グループ長:岩手県立大学 教授 柴田 義孝)**

- ・一口に利用して頂きたい人といってもそのレベルは様々であり、敷居が高い、使い方がわからない等の印象を与えないよう、アピールしたい相手のレベルに合わせていく必要がある。
- ・「防災」のようなアピール効果の高い切り口をベースに、JGN と地域情報ハイウェイの相互接続や広域化などへと発展させていくことが、地域社会への浸透に効果的だと思われる。
- ・他の利用者や、通信事業者など、人と人との繋がりによって問題が解決される場合もある。各種の会合や意見交換など、地域におけるヒューマンネットワークを拡げていくことが重要である。

## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第6回利用促進部会の開催状況

- ・日時:平成19年1月17日(水) 10:30～12:00
- ・場所:広島国際会議場 地下2F 大会議室「ダリア」
- ・参加者数:約50名
- ・内容:JGN2の活動状況について  
ディスカッション「今後のテストベッドネットワークへの期待」



## 3. 主な活動状況 (1)利用促進部会

### 第6回利用促進部会「ディスカッション」の概要

#### **JGN2の利用促進方策について**

##### コミュニティの形成について

- ・コミュニティを形成し運営するには、大変な時間を要するため、ボランティア・兼務では限界がある。継続できる体制・仕組み作りが必要である。
- ・学生をうまく巻き込むことが重要である。
- ・あるコミュニティでは、最初、若い人材・技術者・研究者が地域コミュニティを作り、地域ネットワーク、法人化と段階的に組織化を行うことによって、通信事業者としての基盤を構築しつつ、人材育成、セミナーを実施して来た。

##### 地域活性化について

- ・ネットワークを繋ぐだけではなく、地域連携という最終目標に対してデザインを描くことが重要である。
- ・地域情報ハイウェイの相互接続は、相互接続を意識しなくてもユーザが利用できるのがメリットである。
- ・地域にとって何が幸せなのかをコミュニティとして考える必要がある。
- ・地方では研究テーマのアイデアが不足している。次期テストベッドネットワークでは、わかりやすいテーマが必要ではないか。

##### 新規ユーザの開拓について

- ・申請書が書きづらい等、利用には技術より使い方の面での敷居が高い。
- ・企業ユーザを開拓して行く必要がある。企業が参加しない理由を把握することも有用である。

#### **JGN2の効果について**

- ・JGN2がきっかけとなった産学官連携の取り組みがある。定量化できる成果ではないが、大きな意味があった。
- ・インターネットではできない実験を、JGN2を利用して遠方の企業と実施することができた。

### 3. 主な活動状況 (2)利用促進WG

平成17年度の重点活動として、利用促進部会の下、利用促進の主体となる利用促進ワーキンググループ(以下「利用促進WG」という。)を設置し、次の活動を行うこととした。

- グループ長及びメンバー相互の意見・情報交換と実情把握
- JGN 利活用の活発化方策の検討
- 具体策の推進と展開(特定地域の支援)
- 利用促進部会での報告

#### 活動状況

<b>第1回 平成17年1月17日(月)</b> 於 リーガロイヤルホテル大阪 蘭の間
<ul style="list-style-type: none"> <li>•WG設置の主旨確認</li> <li>•WGの成果と活動スケジュール</li> <li>•特定地域支援の方法 等</li> </ul>
<b>第2回 平成17年3月17日(木)</b> 於 三菱総合研究所
<ul style="list-style-type: none"> <li>•支援対象地域の選定</li> <li>•支援方法の検討</li> </ul>

#### メンバー

<p>&lt;ワーキンググループ体制&gt;</p> <p>グループ長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•西村 俊之(三菱総合研究所)</li> </ul> <p>メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•錦部 政朋(総務省東北総合通信局)</li> <li>•當舎 良章(兵庫県情報政策課)</li> <li>•今井 正和(鳥取環境大学)</li> <li>•広岡 淳二(情報通信研究機構 北九州IT研究開発支援センター)</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

メンバーの所属・役職は当時のもの

### 3. 主な活動状況 (2)利用促進WG

#### 利用促進ワーキンググループの活動状況と成果

活動

(1) 特定地域を対象とした利用促進活動の検討・展開、JGN プロジェクトの立ち上げ・イベント運営支援

- ・ 支援を必要とする地域(利用申請が1件も無い8地域)のうち4地域に対し、WGメンバーが訪問、関係者と利用促進に関するディスカッションを実施。
- ・ その他4地域は、関係者へのヒアリング、定期的なモニタリングを実施。

成果

支援地域	最初の利用申請機関
群馬県	群馬大学
栃木県	宇都宮大学
新潟県	新潟大学
長野県	塩尻市、松本市
島根県	松江高専
徳島県	徳島大学
熊本県	熊本大学、熊本県工業技術センター
沖縄県	琉球大学

は訪問地域

全ての都道府県からJGN2の利用申請  
(利用ゼロ地域無)

### 3. 主な活動状況 (2)利用促進WG

#### 利用促進ワーキンググループの活動状況と成果

<b>活動</b>	(2)得られた活動の成果やノウハウ等の共有、他の地域への展開		(3)他地域の研究事例・テーマや研究協力者の紹介など、利用促進のために有効な活動の実施
	<b>成果</b>	<b>成果・ノウハウ報告の実績</b>	<b>活動内容</b>
・近畿JGN2利用促進部会 (平成17年6月16日)		JGN2の 利用申請支援	個別にJGN2利用申請までの支援を実施
・東海JGN2利用促進部会 (平成17年7月6日)			
・東海JGN2推進協議会 (平成17年11月7日)		イベント支援	全国で開催されるJGN2関連イベントにおける支援を実施
・第3回利用促進部会 (平成17年7月27日)		総合通信局 JGN2勉強会	総務省と連携し、総合通信局の実務担当者会議にてJGN2に関する勉強会を開催(平成17年12月8日～9日)。
・第4回利用促進部会 (平成18年1月18日)			
・総合通信局テレビ会議 (1～2ヶ月に1回開催)			

全国の細かな利用者ニーズに対応し、JGN2の利用を促進



### 3. 主な活動状況 (3)利用促進賞 (地域貢献優秀賞)



#### 利用促進賞(地域貢献優秀賞)について

- ・目的: JGN2を有効に活用したプロジェクトや関連イベントを表彰し、広くアピールすることにより、JGN2の利用がより一層促進されることを目指す。
- ・実施主体: 利用促進部会(相原部会長)が中心となり、必要に応じて他の部会や関係機関と連携して進める。
- ・表彰対象: JGN2が開始された平成16年4月以降、平成18年10月末までに申請のあった全てのJGN2一般研究プロジェクト(135件)のうち下記の条件を満たすもの
  - 産・学・官・地域の連携を推進している
  - 実験・研究のエリアが広範囲にわたっている、など
- ・表彰時期: 平成19年1月 JGN2シンポジウム(広島) JGN2ホームページに掲載
- ・表彰件数: 20件(延べ142機関)



## 3. 主な活動状況 (4)その他の活動

### 広報資料及び広報活動の充実

- ▶ JGN2広報用ビデオの作成
  - JGN2の活動やサービス内容をアニメーションなどを用い、分かりやすく紹介




- ▶ 広報資料「みんなのJGN2ネットワーク！」の作成
  - ネットワーク技術者以外の方にも分かりやすい内容
  - JGN2の特徴、利用のメリット、事例などのポイントを端的に説明

**1. JGNとは**

JGNは、次世代のネットワーク関連の技術開発やアプリケーション開発などに活用することを目的としたオープンな研究開発ネットワークです。このネットワークは、ネットワーク関連の最先端の研究開発に加え、教育・医療・防災等の幅広い分野で地域社会に密着したアプリケーション等の実証実験に利用することができます。

こうした目的であれば、地方自治体、学校関係者、医療関係者、民間企業等の方々をはじめ誰でも利用することができます。

目的：研究開発/実証実験      ご利用      研究成果により  
未来のIT社会を展望



これらの資料を用い、地域でのイベント、会議、各種説明会などで積極的に広報活動を行い、JGN2の利用促進やJGN2の認知度の向上に努める。



# (参考) 利用促進賞(地域貢献優秀賞)一覽(1)



No	プロジェクト番号	研究テーマ	研究機関(太字下線はプロジェクトリーダー)
1	JGN2-A16001	JBプロジェクト	<b>慶應義塾大学</b> 、株式会社サイバーソリューションズ、東北大学、東京大学、(独立行政法人情報通信研究機構、)国立天文台、財団法人ソフピアジャパン、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、名古屋大学、鳥取環境大学、大阪大学、倉敷芸術科学大学、広島大学、広島市立大学、九州工業大学、九州大学、九州産業大学、佐賀大学、サイバー関西プロジェクト、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、奈良県工業技術センター、株式会社インターネットイニシアティブ、株式会社トランス・ニュー・テクノロジー
2	JGN2-A16006	超高速ネットワークを用いたバイOMETリック個人認証局の研究開発	<b>北九州市立大学</b> 、早稲田大学、新日鉄ソリューションズ株式会社、京都工芸繊維大学、株式会社タカダイホメックス
3	JGN2-A16015	高臨場感遠隔コミュニケーションシステムの構築	<b>富山県立大学</b> 、北陸先端科学技術大学院大学、福井大学、高知工科大学
4	JGN2-A16020	地域間相互接続実験プロジェクトII	<b>麗澤大学</b> 、株式会社インテック・ネットコア、山梨県立大学、中国・四国インターネット協議会、岐阜県立情報科学芸術大学院大学、名古屋大学、財団法人京都高度技術研究所、有限会社改、大分大学、山口大学、九州大学、株式会社データコア、別府大学、大阪大学、北海道総合通信網株式会社、高知工科大学、特定非営利法人北海道地域ネットワーク協議会、北海道大学、北陸通信ネットワーク、(独立行政法人情報通信研究機構、)インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス株式会社、日本テレコム株式会社、株式会社石川コンピュータ・センター、ミテネインターネット株式会社、鳥取環境大学、稚内北星学園大学、株式会社フォーサイトウェブ、松下電器産業株式会社、株式会社電算、島根県、有限会社ナインレイヤーズ
5	JGN2-A16021	地域ライブ映像配信に関する実証実験	<b>エムネット株式会社</b> 、宮崎市、アボック株式会社、宮崎大学
6	JGN2-A16026	工業系高等学校におけるIPv6を用いたユビキタス社会実験研究	<b>佐賀大学</b> 、広島大学、広島市立大学、宮崎大学、大分大学、琉球大学、山梨県立大学、札幌医科大学
7	JGN2-A16028	地域間広帯域コンテンツ流通基盤実験	<b>東北大学</b> 、八戸工業大学、株式会社データコア、会津大学、山形県、滋賀県、財団法人ソフピアジャパン、東京大学、九州産業大学、秋田大学
8	JGN2-A16030	兵庫・京都・滋賀・福井・奈良・和歌山情報ハイウェイ相互接続実験	<b>兵庫県</b> 、京都府、滋賀県、福井県、奈良県、和歌山県

# (参考) 利用促進賞(地域貢献優秀賞)一覽(2)



No	プロジェクト番号	研究テーマ	研究機関 (太字下線はプロジェクトリーダー)
9	JGN2-A16041	地域情報ハイウェイ相互接続プロジェクト	<b>財団法人ソフトピアジャパン</b> 、岐阜県、福井県、滋賀県、三重県
10	JGN2-A16052	JGN2を活用した遠隔カウンセリングに関する研究開発	<b>岩見沢市</b> 、筑波大学
11	JGN2-A16056	地域が自立・自律してインターネットを運用するための技術の実証的な研究	<b>高知工科大学</b> 、株式会社愛媛シーエーティヴィ、株式会社NTT西日本-四国
12	JGN2-A16060	ハイビジョン映像伝送実験	<b>有限会社テレビジョンテック</b> 、鳥取県産業技術センター、米子工業高等専門学校
13	JGN2-A17002	岩見沢・松山間情報交流事業に関する研究開発	<b>愛媛大学</b> 、岩見沢市、松山市
14	JGN2-A17005	超高速インターネットを利用した次世代国際共同研究に関する研究	<b>九州大学</b> 、九州産業大学、株式会社キューデンインフォコム、(独立行政法人情報通信研究機構、)佐賀大学、長崎大学、大分大学、特定非営利活動法人北海道地域ネットワーク協議会、北海道大学、札幌医科大学、岩手医科大学、NECTEC、Mahidol University、SingaREN、NUS (National University of Singapore)、株式会社電通国際情報サービス、藤元早鈴病院
15	JGN2-A17020	高専間の大容量教育コンテンツ配信実験	<b>高知工業高等専門学校</b> 、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、株式会社電通国際情報サービス
16	JGN2-A17024	混在ネットワーク環境下におけるパケット整形技術、暗号セキュリティ技術を使った通信安全性確保の研究	<b>塩尻市</b> 、松本市、株式会社ミライコミュニケーションネットワーク
17	JGN2-A17027	遠隔地間の実時間共同作業システム	<b>鹿児島大学</b> 、株式会社奈良情報システム
18	JGN2-A17029	JGN2を活用した広域連携によるグリッドコンピューティングの研究	<b>岐阜工業高等専門学校</b> 、理化学研究所
19	JGN2-A17048	京都・滋賀情報ハイウェイを活用した行政連携実験	<b>京都府</b> 、滋賀県
20	JGN2-A18005	高精細動画コンテンツのマルチキャスト配信に関する研究	<b>電気通信大学</b> 、FAシステムエンジニアリング株式会社、愛媛大学、高知工科大学、福井大学、徳島大学